

# リウマチ膠原病内科

## a. 体制

### (1)リウマチ・膠原病内科の目標:

我々の科では個々の患者さんの直面する問題を真剣に取り上げ、分析し、十分な説明と同意のもとでエビデンスに基づいた最善の治療を行うことを理念とする。

リウマチ膠原病は同じ診断名でも患者さんひとりひとりで病気の活動後が違い、侵される臓器の種類およびその障害の程度が違います。また、患者さんの社会的立場も違います。患者さんひとりひとりに対応したオーダーメイド医療を目指す。

患者さんのよきパートナーとなれるかが重要です。信頼できるパートナーとなれるよう努力します。「患者さんに問題点を見つけ、それを解決するために研究心をもって活動する」という原点のもと、臨床研究を実行する。

### (2)リウマチ・膠原病内科の方針および展望:

地域の先生方と連携を密として、大阪北地域のリウマチ膠原病医療の核となれるよう努力する。これまで同様、京都大学臨床免疫学教室との臨床検討会および臨床研究を推進する。

患者さんひとりひとりに対応したオーダーメイド医療を目指す。特に、新しい治療法の個人適応には充分のエビデンスの検討とインフォームドコンセントを得ることが前提です。

### (3)リウマチ・膠原病内科の対象疾患

関節リウマチ/悪性関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、多発性筋炎・皮膚筋炎、強皮症、混合性結合組織病、血管炎症候群(結節性多発動脈炎、顕微鏡的多発動脈炎、多発血管炎性肉芽腫症、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症、高安動脈炎、巨細胞性動脈炎など)、ベーチェット病、シェーグレン症候群、成人スチル病、リウマチ性多発筋痛症、などを対象としている。

### (4)教育

当院は日本リウマチ学会教育施設として認定されている。井村および高橋は日本リウマチ学会専門医・指導医、藤田および中島は日本リウマチ学会専門医であり、日常の診療、定期的なカンファレンスを通じて研修医、学生の教育を行っている。井村は京都大学医学部臨床準教授であり、京都大学より教育研修を受け入れている。

### (5)リウマチ膠原病教室の開催

2006年よりリウマチ膠原病教室を開催し、リウマチ膠原病疾患およびその治療に関する基礎的および最新の情報を患者さんに伝える機会を設けている。2018年度はミニ教室を4回に分けて開催した。

### (6)院外活動および地域医療との係わり:

大阪バイオロジックフォーラムを2007年より開催し、生物製剤への理解を深める機会を作っている。2018年度は2019年2月2日に第12回大阪バイオロジックフォーラムを開催した。

## (7)スタッフ 2018年度

主任部長 井村 嘉孝

医学博士

日本内科学会認定医・総合内科専門医, 日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員

専門:臨床免疫学(リウマチ・膠原病疾患)

副部長 藤田 昌昭

医学博士

日本内科学会認定医, 日本リウマチ学会専門医・指導医・登録ソノグラファー

専門:臨床免疫学(リウマチ・膠原病疾患)

副部長 高橋 令子

医学博士

日本内科学会認定医, 日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員, 日本臨床免疫学会評議員

専門:臨床免疫学(リウマチ・膠原病疾患)

副部長 中島 俊樹

医学博士

日本内科学会認定医・総合内科専門医, 日本リウマチ学会専門医・登録ソノグラファー

専門:臨床免疫学(リウマチ・膠原病疾患)

レジデント 中窪 悠登

専門:臨床免疫学(リウマチ・膠原病疾患)

外来応援医師

辻本 考平

日本内科学会認定医・総合内科専門医, 日本リウマチ学会専門医, 日本感染症学会専門医

専門:臨床免疫学(リウマチ・膠原病疾患), 感染症

八木田 麻裕

日本内科学会認定医

専門:臨床免疫学(リウマチ・膠原病疾患)

水野 裕美子

日本内科学会認定医

専門:臨床免疫学(リウマチ・膠原病疾患)

## b. 診療実績

### (1)外来診療体制(2018年度)

当科の外来は予約診と初診・当日診の2診療制だが, 土曜は初診・当日診のみとしている. 受診者数は一日約48名であった.

### (2)外来診療統計 (2018年4月1日より2019年3月31日)

外来受診者数(のべ数)12,980 名, 月平均 1,082 名

初診者数 910 名, 月平均 76 名, 紹介率 85.3 %

### (3)入院診療実績 (2018年4月1日より2019年3月31日)

入院は主として全身性エリテマトーデス, 関節リウマチをはじめとする膠原病に対して治療を行い, 2018年度入院患者数は 251 名(他科からの転入含む), 平均在院日数 18.6 日

2018年度の主な入院は:

関節リウマチ 59名, 全身性エリテマトーデス 27名, 多発性筋炎・皮膚筋炎 16名, 強皮症 6名, 混合性結合組織病 10名, 血管炎症候群 47名, シェーグレン症候群 4名, 抗リン脂質抗体症候群10名, ベーチェット病 6名, リウマチ性多発筋痛症 15名, 成人スチル病 6名, 脊椎関節炎 2 名, 結晶誘発性滑膜炎6名, など.

## c. 研究実績

### 学会

- 1 中島俊樹、橋本 求、中坊周一郎、富澤琢也、西谷江平、村田浩一、山本渉、田中真生、伊藤宣、藤井康友、三森経世 関節リウマチ患者における肘関節エコーの重要性～KURAMAコホートをを用いた研究～ 第62回日本リウマチ学会・学術集会 2018/4/26 (京都)
- 2 富澤琢也、伊藤 宣、小豆澤勝幸、村田浩一、西谷江平、橋本 求、田中真生、村上孝作、中坊周一郎、中島俊樹、藤井康友、三森経世、松田秀一 リウマチ患者の肘関節破壊に対する因子解析 第62回日本リウマチ学会・学術集会 2018/4/27 (京都)
- 3 内藤遼太、籀智さおり HCQ単剤で加療された軽症SLE13例の検討 第62回日本リウマチ学会・学術集会 2018/4/27 (京都)
- 4 八木田麻裕、内藤遼太、水野裕美子、中野友美子、藤田昌昭、籀智さおり、井村嘉孝 当院全身性エリテマトーデス維持療法中にヒドロキシクロロキン使用した64例の臨床的検討 第62回日本リウマチ学会・学術集会 2018/4/27 (京都)
- 5 田中孝正、藤田昌昭 右肩痛と著明な高IgG血症をきたした骨サルコイドーシスの1例 第62回日本リウマチ学会・学術集会 2018/4/27 (京都)
- 6 水野裕美子、井村嘉孝 TNF阻害薬で軽快した巨細胞性動脈炎とクローン病合併の高齢女性 1例 第62回日本リウマチ学会・学術集会 2018/4/28 (京都)
- 7 Koji Kitagori、Hajime Yoshifuji、Toshiki Nakajima、Yoshie Gon、Shuji Akiduki、Ran Sasai、Kosaku Murakami、Koichiro Ohmura、Tsuneyo Mimori Osteopontin in cerebrospinal fluid as a diagnostic marker of NPSLE 第62回日本リウマチ学会・学術集会 2018/4/28 (京都)
- 8 Yoshie Gon、Hajime Yoshifuji、Toshiki Nakajima、Koji Kitagori、Kosaku Murakami、Ran Nakashima、Koichiro Ohmura、Chikashi Terao、Tsuneyo Mimori Long-term outcomes of patients with refractory Takayasu arteritis treated with biologics. 第62回日本リウマチ学会・学術集会 2018/4/28 (京都)
- 9 清水 円、中島俊樹、河原理恵、山本博子、橋本 求、中坊周一郎、富澤琢也、山本 渉、伊

- 藤 宣、藤井康友 関節リウマチ患者における肘関節エコー評価の重要性 日本超音波医学会第91回学術集会 2018/6/9 (兵庫)
- 10 河原理恵、中坊周一郎、清水 円、山本博子、中島俊樹、橋本 求、富澤琢也、山本 涉、伊藤宣、藤井康友 関節リウマチ患者の訴えに基づく観察により関節エコー検査を簡素化する試み 日本超音波医学会第91回学術集会 2018/6/9 (兵庫)
- 11 Hideaki Tsuji, Ran Nakashima, Yoshitaka Imura, Masato Yagita, Hajime Yoshifuji, Shintaro Hirata, Takaki Nojima, Eiji Sugiyama, Kazuhiro Hatta, Yoshio Taguchi, Masaki Katayama, Shuji Akizuki, Kosaku Murakami, Motomu Hashimoto, Masao Tanaka, Koichiro Ohmura, Tsuneyo Mimori Efficacy and Safety of Combined Immunosuppressive Therapy with High-Dose Glucocorticoid, Tacrolimus, and Cyclophosphamide in Interstitial Lung Disease Accompanied By Anti-MDA5-Positive Dermatomyositis –a Multicenter Prospective Study - The Annual Meeting of the American College of Rheumatology (ACR 2018) October 19–24, 2018 (Chicago, USA)
- 12 Reiko Takahashi One role of regulatory T cells based on the result of administration of the therapeutic agent to lupus model mouse 第47回日本免疫学会総会 2018/12/12 (福岡)

## 論文

- 1 Kitagori K, Yoshifuji H, Oku T, Ayaki T, Kuzuya A, Nakajima T, Akizuki S, Nakashima R, Murakami K, Ohmura K, Hirayama Y, Takahashi R, Mimori T.  
Utility of osteopontin in cerebrospinal fluid as a diagnostic marker for neuropsychiatric systemic lupus erythematosus. *Lupus*. 2019 Mar;28(3)414-422.
- 2 Okabe N, Ohmura K, Katayama M, Akizuki S, Carpino N, Murakami K, Nakashima R, Hashimoto M, Imura Y, Yoshifuji H, Tanaka M, Mimori T.  
Suppressor of TCR signaling-2 (STS-2) suppresses arthritis development in mice. *Mod Rheumatol*. 2018 Jul;28(4)626-636.
- 3 Tsujimoto K, Hata A, Fujita M, Hatachi S, Yagita M. Presepsin and procalcitonin as biomarkers of systemic bacterial infection in patients with rheumatoid arthritis. *Int J Rheum Dis*. 2018 Jul;21(7)1406-1413.
- 4 Yagita M, Hata S, Miyata H, Kakita H, Tsukamoto T, Muso E, Fujita M. Systemic Lupus Erythematosus Associated with Ovarian Cancer. *Intern Med*. 2019 Mar 1;58(5)731-735.
- 5 Imura Y, Yukawa N, Handa T, Nakashima R, Murakami K, Yoshifuji H, Ohmura K, Ishii H, Nakata K, Mimori T. Two cases of autoimmune and secondary pulmonary alveolar proteinosis during immunosuppressive therapy in dermatomyositis with interstitial lung disease. *Mod Rheumatol*. 2018 Jul;28(4)724-729.
- 6 中島俊樹 【血管炎(第2版)-基礎と臨床のクロストーク】最新の研究トピックス 基礎研究の進歩 高安動脈炎におけるHLA-B\*52およびIL12Bリスクアレルと大動脈弁閉鎖不全症との

関係(解説/特集) 日本臨床 (0047-1852)76巻増刊6 血管炎(第2版) Page451-455(2018.07)

- 7 中島俊樹、三森経世 【内科疾患における生物学的製剤の使い分け】《内科疾患における生物学的製剤の使い方》膠原病(関節リウマチ以外)(解説/特集)  
Modern Physician(0913-7963)38巻9号 Page922-924(2018.09)

#### 研究課題

- 1 インテグリン制御による新規抗リウマチ薬・抗炎症薬の開発 (藤田昌昭)
- 2 生物学的製剤使用関節リウマチ患者の長期安全性研究 (SECURE 研究)  
--- 多施設共同研究 (簗智さおり)
- 3 全身性エリテマトーデス (SLE) の病勢把握における可溶性 CD14 subtype (プレセプシン) 測定の意義 (辻本孝平)
- 4 抗アミノアシル tRNA 合成酵素抗体測定のための OJ 抗原精製と測定系の確立  
(井村嘉孝)
- 5 抗 MDA5 陽性間質性肺炎合併皮膚筋炎に対する 3 剤併用療法プロトコルの有用性と安全性の検討 --- 多施設共同研究 (井村嘉孝)
- 6 広域抗菌薬使用による腸内細菌叢への影響の検討 (辻本孝平)
- 7 急性炎症蛋白質制御による新規抗リウマチ薬・抗炎症薬の開発 (藤田昌昭)
- 8 全身性エリテマトーデスにおける SOCS1 の役割の解明と治療への応用 (高橋令子)